

Purpose of the Symposium

Program

午前の部 近代文学をひらく

10:30-10:40	開会の挨拶・本会趣旨説明 周佳正 (広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期三年)
10:40-11:20	発表1 「徳田秋聲と志賀直哉」 下吹越可南子 (広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期一年)
11:20-12:00	発表2 「太宰治と広島」 山辺空 (広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期一年)

休憩 (12:00-13:00 昼休憩)

午後の部 志賀直哉を読み直す

13:00-13:40	発表3 「教科書のなかの志賀直哉」 奥山花菜 (広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期一年)
13:40-14:20	発表4 「志賀直哉と在日朝鮮人作家 —金鶴泳作品に注目して—」 木野田亮 (広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期二年)

休憩 (14:20-14:30 休憩)

特別講演 特別講演

14:30-15:30	特別講演 「志賀直哉と戦争」 下岡友加 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)
15:30-16:00	会場参加者も含めての総合討議 「尾道で志賀直哉を考える意味」
16:00-16:10	閉会挨拶 山崎環 (志賀直哉旧居保存活用委員会メンバー)

お問い合わせ

シンポジウムについて

広島大学文学部日本文学語学研究室・近代文学ゼミ
以下のメールアドレスまで (メールのみの問い合わせとさせていただきます)
メール: shimooka@hiroshima-u.ac.jp

旧居特別公開・ガイドツアーについて

一般社団法人尾道観光協会
tel.0848-36-5495 (月～金:8:30～17:30)
*HP からメールでのお問い合わせも可能です。

会場アクセス

尾道商業会議所記念館

尾道市土堂1丁目8-8
JR 尾道駅より徒歩15分

志賀直哉 没後 55 年記念シンポジウム

尾道で考える 志賀直哉・広島・ 近代という時代

文学を通して、尾道から「近代」を考える。

尾道商業会議所記念館 2 階議場 入場無料 | 定員 50 名

志賀直哉が暮らし、創作の日々を送った尾道。坂道や路地、寺院、港、海を望む風景のなかには、文学者たちを惹きつけてきた土地の記憶が息づいています。

本シンポジウムでは、広島大学の近代文学研究の成果を尾道にひらき、志賀直哉を中心に、同時代の文学、広島、戦争、教育、在日朝鮮人文学など、さまざまな視点から日本の近代を見つめます。文学作品と、それが生まれた「場所」を行き来しながら、いま尾道で志賀直哉を読む意味を考えます。

来場の皆さまへ
開催時間中は自由に入退場いただけます。発表・講演中の入退場にはご配慮ください。
混雑時は入場を制限する場合があります。

RELATED PROGRAM 関連企画

志賀直哉旧居 特別公開 10 月 24 日 (土)・25 日 (日) 10:00 - 15:00

志賀直哉が尾道で暮らし、創作に向き合った旧居を 2 日間特別公開します。尾道水道を望む南斜面の風景とともに、志賀直哉の生活と文学が育まれた場所を実際にご覧いただけます。

会場 | 志賀直哉旧居 / 入場無料

文学のまち・尾道を歩く —文学風土をめぐるガイドツアー— 10 月 25 日 (日)

13:15 集合 [13:30 - 14:30 まで] 14:45 解散
志賀直哉をはじめ、多くの文学者や芸術家を惹きつけてきた尾道。坂道や路地、海を望む景観を歩きながら、文学者ゆかりの場所をナビゲーターと共にたどります。
「なぜ尾道は文学のまちとなったのか」尾道の風景と暮らし、文学の関係を読み解くガイドツアーです。

場所 | 尾道市街地

参加料 | 無料

参加方法 | 事前申し込み (下記お問い合わせ先参照)

定員 | 30 名 (対象は県内大学生・大学院生)